

公益社団法人私立大学情報教育協会  
令和4年度 第2回産学連携推進プロジェクト委員会議事概要

I. 日 時：令和4年11月22日（火）15：30：17：30：

II. 場 所：私立大学情報教育協会（ZOOMによるテレビ会議開催）

III. 参加者：向殿委員長、大原副委員長、辻村委員、青木委員、歌代委員、松本委員、田辺委員、  
齋藤アドバイザー、吉永アドバイザー、渡部アドバイザー、原田アドバイザー、青木アドバイザー、  
井端事務局長、森下主幹

IV. 資料

1. 2022年度「学生による社会スタディ」の開催要項（検討案）
2. 2022年度「大学教員の企業現場研修」の開催要項（検討案）
3. 2022年度「産学連携人材ニーズ交流会」の開催計画（検討案）
4. 2022年度 産学連携事業 開催日程検討表

V. 検討内容

1. 「学生による社会スタディ」の開催計画について

前回の検討に基づき有識者3名に情報提供の協力をお願いした結果、3名から了解が得られたことを踏まえ、2022年度「学生による社会スタディ」の開催要項（検討案）について検討した。

(1) 開催内容

昨年同様にオンライン（ZOOM）で開催する。

(2) 参加者の募集

- ① 募集は、「情報提供のみの参加」と「全プログラム参加」とする。
- ② 募集定員は合わせて300名程度とする。
- ③ 大学の学部長、学科長、関係教職員の方に開催要項の配布を依頼し、募集ポスターの掲示、大学のWebサイトに募集情報の掲載などを依頼して参加者を募集する。

(3) 有識者について

第1回委員会で検討した3名の有識者から了解が得られたことから以下の3名の方に継続してお願いすることにした。

1. 須藤 修 氏 （中央大学 国際情報学部教授）

「未来は君たちの手にあるーDXやメタバースなどによるイノベーションー」

※ DXやメタバースなどによるイノベーションをお話しいただく。

2. 小西 一有 氏 （合同会社タッチコア 代表 九州工業大学客員教授）

「意味のイノベーションによるアントレプレナーシップへのチャレンジ」

※ アントレプレナーシップへのチャレンジをお話しいただく。

3. 大原 茂之 氏 （東海大学名誉教授 株式会社オプテック会長）

「サイバーとフィジカルを融合した学びでデータ革命にチャレンジ」

※ データ革命にチャレンジすることをお話しいただく。

(4) 開催要項とスケジュール

有識者と日程調整を行った結果、令和5年2月8日（水）12：30～17：30の開催として、以下の開催要項を取りまとめた。

## 未来を切り拓く志を支援する「学生による社会スタディ」開催要項（案）

公益社団法人 私立大学情報教育協会

IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどによるDX（デジタルトランスフォーメーション）が進展し、様々な分野で産業構造、人々の働き方、ライフスタイルが大きく変化しています。このような中で日本には、社会が抱える課題解決の創出国として自ら新たな成長分野を創り出し、チャレンジしていくことが求められています。

その源は若者一人ひとりの力に負うところが大きく、とりわけ未来に立ち向かい、自ら切り拓く高い志と意欲に委ねられています。ここでは、情報通信技術を活用して新しい価値の創出の重要性に気づいていただき、早い段階から発展的な学びが展開できることを期待しています。

### 1. 開催日時

日時： 令和5年2月8日（水） 12：30～17：30

会場： オンラインによるテレビ会議形式（Zoom使用）で実施します。

### 2. プログラム概要

12：00	Zoom接続確認
12：30	開会挨拶
12：40	社会スタディの進め方について
13：00～13:35	<p><b>【有識者からの情報提供と意見交換】</b></p> <p>「未来は君たちの手にある- DXやメタバースなどによるイノベーション-」          須藤 修 氏（中央大学国際情報学部教授、東京大学大学院特任教授）          デジタル技術が産業・生活・文化に至る社会のあらゆる分野に浸透し、地球規模で、個人の幸せや社会の豊かさを実現する価値創造に結び付ける取り組みが進展している。世界の主流は、DX(デジタル変革)に加えて VX(現実世界と仮想世界を融合する変革)に大きく変わろうとしている。          未来は君たちの手にあるので、文理の境界を超え、新しい社会の創造に向けたスキルの習得や社会的実践を通じてイノベーションにチャレンジして欲しい。</p>
13：35～13:50	※ 質疑応答・意見交換
13：50～14:00	休憩
14：00～14：35	<p>「意味のイノベーションによるアントレプレナーシップへのチャレンジ」          小西 一有 氏（合同会社タッチコア代表、九州工業大学客員教授）          グローバルなデジタル変革の中では、従来の「問題解決のイノベーション」では競争に勝てない。大事なことは、「モノからコト」へのような人々の生活の豊かさや幸せ感をもたらす「意味のイノベーション」を実現することである。そのためには、既成概念、固定概念を覆すような発想とそれを実践するマインド、すなわち「起業家精神」の訓練が重要であり、学生時代から失敗をおそれずにチャレンジして欲しい。</p>
14：35～14：50	※ 質疑応答・意見交換
14：50～15：25	<p>「サイバーとフィジカルを融合した学びでデータ革命にチャレンジ」          大原 茂之 氏（東海大学名誉教授、株式会社オプテック代表取締役）          日本は新しい変化への対応が苦手な昔の成功体験から抜け出せないでいる。その要因の一つとして、領域ごとの活動にとどまっており、サイバー上でデータを横断的に活用し、物事を予測してリアルの世界で構想を実現していくことが遅れていることがあげられる。データ駆動型の社会で活躍するには、教室の学びだけでなく、サイバー空間を活用して多くの分野と交わり、データを科学的に活用し、新しい価値創造に主体的に行動できることが求められる。</p>
15：25～15：40	※ 質疑応答・意見交換
15：40	休憩
15：50～16：50	<p><b>【気づきの整理と発展】</b></p> <p>気づきの整理と発展のためのグループ討議          ※ グループで「情報通信技術を活を活用して未来社会にどのように向きあうか」について考える。          気づきの発表</p>
16：50～17：30	※ グループごとにまとめた結果を代表者が発表する。
17：30	閉会

### 3. 募集対象

国・公・私立大学の1年生・2年生で、オンラインによるテレビ会議（Zoom 使用）に参加可能な方  
※ Zoom にネット接続し、Web カメラ、マイク等を用いて参加できることが参加条件になります。

#### 4. 募集定員

- ① 「全プログラム参加者」 100 名（グループ討議を含む全てのプログラムに参加する学生）  
※ 申込が定員を超えた場合、一部の大学に参加者が偏らないよう抽選等の方法で参加者を決定します。
- ② 「情報提供のみの参加者」 100 名（有識者からの情報提供と質疑応答・意見交換に限定して参加する学生）

#### 5. 応募方法と応募先 URL

本協会の以下の申込サイトからお申込み下さい。参加費は無料です。

申込みサイト <http://www.juce.jp/sangaku/syakai-study/>

#### 6. 応募締切

令和 5 年 1 月 20 日（金）

#### 7. 参加者の確定

- ① 確定した「全プログラム参加者」には、1 月末に「参加案内」と「Zoom の URL」、「プログラムの進め方」などをメールで連絡します。
- ② 確定した「情報提供のみの参加者」には、1 月末に「参加案内」と「Zoom の URL」をメールで連絡します。

#### 8. プログラムの進め方と学びの成果物の提出、修了証の発行について

- (1) 有識者からの情報提供と質疑応答・意見交換（全参加者が対象）  
各有識者から 35 分程度の情報提供を行い、その後「Zoom の質問機能」を用いて 15 分程度の質疑応答・意見交換を行います。
- (2) 気づきの整理と発展のためのグループ討議（全プログラム参加者のみ対象）  
「全プログラム参加者」は、有識者からの情報提供を受けて、社会的課題を解決するために ICT や AI 等を活用して未来を切り拓いていく学生自身の姿をイメージし、大学での学びにどのように取組もうとしているのかグループ討議を行い、その結果をグループで発表します。  
なお、「情報提供のみの参加者」には配信されません。
- (3) 学びの成果物について（全参加者が対象）
  - ① 終了後に、学びの成果物を各自作成し 2 週間以内にメールで本協会事務局に報告いただきます。（A4、1 枚）
  - ② 本協会では学びの成果物を審査し、令和 5 年 3 月末に「修了証」を郵送します。なお、「全プログラム参加者」の中で優れた内容については、「優秀証」を発行し、所属大学の学長に報告するとともに、本協会の Web サイトを通じて紹介します。

#### 9. 開催内容の公開について

- ① 有識者からの情報提供、質疑応答は、個人情報に配慮して編集した後に、ホームページ上で公開を予定しています。なお、「全プログラム参加者」によるグループ討議の様子は公開しません。
- ② 参加者の「情報提供、質疑応答、グループ討議」の撮影・録画は、著作権・肖像権の観点から厳禁とします。

#### 10. 本件の連絡先

公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局 担当 森下  
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-14 九段北 TL ビル 4F  
TEL : 03-3261-2798 FAX : 03-3261-5473 [morishita@juce.jp](mailto:morishita@juce.jp)

## 2. 「大学教員の企業現場研修」の開催方針について

第 1 回委員会で検討した内容踏まえ、各社と調整し、各社のプログラム案を取りまとめた結果、以下のように開催要項（案）を取りまとめた。

### (1) 開催内容

昨年同様にオンライン（ZOOM）で開 1 日の開催とし、各社 90 分のプログラムで実施する。

### (2) 参加者の募集

- ① 参加対象は、本協会加盟私立大学の教員で、オンラインによるテレビ会議（Zoom 使用）に参加可能な方とし、定員は 300 名（定員を超えた場合、抽選）

### (3) スケジュール

各社と日程調整を行った結果、令和 5 年 2 月 16 日（木）10：00～17：30 開催とし、以下の開催要項を作成した。

開催要項は11月末に加盟大学に発送し、参加者を募集することにした。

## 2022年度「大学教員の企業現場研修」開催要項（案）

公益社団法人 私立大学情報教育協会

本事業は大学教員の教育力向上を支援するため、賛助会員の協力を得て情報産業における事業戦略の動向と若手社員を交えた大学での学びに対する要望などの意見交換などを通じて、授業改善に向けた気づきを提供するためにオンライン(Zoom使用)で実施します。

### 1. 開催日時

日 時： 2023年2月16日（木） 午後10時00分～午後5時35分

会 場： オンラインによるテレビ会議形式（Zoom使用）で実施します。

### 2. プログラム概要

9:50	Zoom 接続開始
10:00	開会挨拶
10:05～11:35 日本電気（株）	<p>(1) 社会価値を創造する NEC の事業概要の紹介（15分） NEC は、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指しています。社会価値を創造する NEC の事業概要についてご紹介します。</p> <p>(2) 最新技術動向の紹介（30分） NEC では、教育機関へ提供してきた統合 ID 管理にマイナンバーカード連携機能を付加し、生涯の教育データを一元化し本人にとって最適なデータ活用を実現する仕組みを提供します。</p> <p>(3) 若手社員との意見交換（45分） 社会人になってから今までの経験を通じて、大学時代にやっておけば良かったと思うことや、大学時代に役立った経験・授業はどの様なことだったのか等について若手社員から発表し、意見交換を行います。</p>
13:00～14:30 （株）内田洋行	<p>(1) 内田洋行の教育分野における DX 戦略の紹介（15分） 教育分野の DX 戦略では、様々なシステムが連携・構成するデジタル・エコシステム構築が今後のキーワードになります。技術標準により連携した事例を紹介し、運用の最適化や学習データの分析・利活用を考えます。</p> <p>(2) 内田洋行の人事戦略の紹介（30分） 内田洋行の社員教育プログラムを通じて、「情報の価値化と知の協創をデザインする企業」を目指して取り組んでいる人材育成の考え方や仕組み、採用などを紹介し、意見交換を行います。</p> <p>(3) 若手社員との意見交換（45分） システムエンジニア及び営業若手社員から業務内容、必要なスキル、ICT 企業の最新の課題や実態、また大学時代に役立った経験や大学への要望などを発表し、その後参加者と意見交換を行います。</p>
14:35～16:05 （株）日立製作所	<p>(1) 日立の事業戦略・「Lumada」の紹介（15分） 日立は OT・IT・プロダクトを結びつけて新たな価値を生み出す「Lumada」を推進しています。Lumada」による社会課題解決・顧客企業の課題解決に向けた取り組みをご紹介します。</p> <p>(2) 「Station Finder for Area Marketing」の紹介（30分） 首都圏エリアの約600駅のSuicaの利用状況に基づくレポート「駅カルテ」を利用したサービスで、Suica データによるリアルな人流の把握やマーケティング、まちづくりの検討などにお役立ていただける取組みを紹介します。</p> <p>(3) 若手社員との意見交換（45分） 営業部門と SE 部門の入社3～4年目の若手社員から業務内容、必要なスキル、最新の課題や実態、大学時代に役立った経験や大学への要望などを発表し、意見交換を行います。</p>
16:05～17:35 【富士通 Japan（株）	<p>(1) 最新の大学 DX(デジタル・トランスフォーメーション)の取り組み紹介（15分） 富士通が開発したデータを安全・安心に流通させる基盤を利用し、大学を取り巻く様々なステークホルダー(企業や地域など)との連携を可能にする取り組みを紹介します。</p> <p>(2) パーパスドリブンを実現する新卒採用（30分） 不確実な時代の中、富士通グループがどうあるべきなのかを定めたパーパスを実現するために、採用のあり方も変革が求められます。現時点での取り組みをご紹介します。</p> <p>(3) 若手社員との意見交換（45分） 入社2年目の若手社員3名から現在の仕事の内容や経験を踏まえ、大学時代に役立った授業や学ぶべきこと、大学に対する要望などについて発表し意見交換を行います。</p>
17:35	閉会挨拶

### 3. 募集対象と募集定員

本協会加盟私立大学の教員で、オンラインによるテレビ会議（Zoom 使用）に参加可能な方  
募集定員：300名（申し込みが定員を超えた場合、抽選等の方法で参加者を決定します）

### 4. 参加費

無料

### 5. 応募方法と申込書掲載URL

申込書は、(<https://www.juce.jp/sangaku/genbakensyu/>) に掲載しますので、メール又は FAX で申込み下さい。

### 6. 応募締切

2023年2月6日（月）

### 7. 参加者の確定

参加申込の確定は、2023年2月13日（月）迄に「参加案内」と「Zoom の URL」をメールで連絡します。

### 8. 開催内容の撮影・録画について

プログラムの撮影・録画は、著作権・肖像権の観点から厳禁とします。

### 9. 本件連絡先

公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局 担当 森下  
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-14 九段北 TL ビル 4F  
TEL : 03-3261-2798 [morishita@juce.jp](mailto:morishita@juce.jp)

## 3. 「第13回産学連携人材ニーズ交流会」の開催方針について

### (1) 情報提供企業の検討について

第1回委員会で検討した5社から情報提供（講演）が難しいとの回答があったため、情報提供企業を再設定して講演依頼を行うことにし、委員、アドバイザーにご協力をお願いを行なった結果以下の企業にお願いすることにした。

#### ① 富士通 Japan 株式会社

※ 社会全体を捉えたデジタルトランスフォーメーション（DX）を鍵に、業種の壁を越えたエコシステムを形成し、経営および社会の在り方の変革と社会課題の解決に貢献する取組みについて紹介いただく。

#### ② 日本マイクロソフト株式会社

※2050年までに「カーボンネガティブ」を目指すことを公表しているサステナビリティへの取り組み、脱炭素社会に向けたデジタルトランスフォーメーションの最新情報等についてお話いただく。

#### ③ アストロスケール社

※ 宇宙の持続可能性（スペースサステナビリティ）実現に向けて、軌道上サービスに取り組んでいる株式会社アストロスケールの取組みをご紹介いただく。

とともに、人材育成や大学教育に対する期待・意見などについてもお話いただきます。050年までに「カー」上記の①～③の企業に情報提供（講演依頼）を行い、その結果を踏まえて次回の第3回委員会で開催要項を決定する。

## 4. 次回の日程について

令和4年12月23日（金）13:30～15:30にオンラインで開催することにした。